

上位の政策名	政策目標5 優れた成果を創出する研究開発環境を構築するシステム改革	
施策名	施策目標5 - 6 科学技術活動の国際化の推進	
主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 科学技術・学術政策局国際交流官 (国際交流官: 平下文康)	
基本目標及び達成目標	-----	達成度合い又は進捗状況
	基本目標5 - 6 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) 国際的な取組が必要とされている研究を国際協力プロジェクトとして推進するとともに、研究成果等の積極的な海外発信を行い、我が国の科学技術活動を認知させる。また、研究者国際交流を促進するとともに、国内の研究環境を国際化する。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 6 - 1 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) 地球規模の問題の解決を目指した研究や国際的な取組が必要となる基礎研究等について、国際協力プロジェクトを推進する。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 6 - 2 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) 研究者間のネットワークを構築し、我が国の研究成果、研究水準を世界に発信するため、海外で開催される国際会議等で研究発表を行う研究者の派遣を拡充する。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 6 - 3 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) 研究者間のネットワークを構築し、我が国の研究成果、研究水準を世界に発信するため、我が国の主導により開催する国際会議に対する支援を拡充する。	概ね順調に進捗
	達成目標5 - 6 - 4 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) 研究者国際交流を促進し、我が国の研究環境を国際化するため、外国人研究者の受入れを拡充する。なお、外国人特別研究員制度(日本学術振興会)の受入人数は、「科学技術・学術活動の国際化推進方策について 報告」(科学技術・学術審議会国際化推進委員会)に掲げられた2,050人/年を目標とする。	概ね順調に進捗
達成目標5 - 6 - 5 (基準年度:平成13年度 達成年度:平成17年度) 研究者国際交流を促進し、我が国の研究環境を国際化するため、海外の優れた研究機関で研究する経験を積めるよう日本人研究者の派遣を拡充する。	概ね順調に進捗	
現状の分析と今後の課題	達成目標5 - 6 - 1 平成14年度は、地球規模問題の解決を目指した研究や国際的な取組が必要となる基礎研究等について、例えば以下のような取組を実施しており、国際協力プロジェクトが順調に進められている。	
	科学技術振興調整費の「我が国の国際的リーダーシップの確保」の課題では、例えば、分子生物学において、若手研究者を対象とする最先端の技術研修コースや国際シンポジウムを日本主導で開催し、アジア太平洋におけるネットワークを強化しており、感染症、がん、創薬等の分野で貢献している。 昭和62年に我が国がベネチアサミットで提唱したヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)は、生体の持つ優れた機能の解明を中心とする基礎研究を国際的に共同して推進するプログラムであり、我が国は積極的に支援している。なお、本プログラムは、研究グラントの受賞者から多くのノーベル賞受賞者を輩出しており(平成14年度は1名輩出)、平成14年度からの新規助成事業として、フェロシップ受賞者が自国に戻って研究するための「キャリア開発奨学金」を開始するなど、制度の改善に努めている。 国際機関会合、各国との科学技術協力協定下の合同委員会等においても、重点協力分野、共同研究プロジェクト等について確認、合意している。	
	達成目標5 - 6 - 2 平成14年度の進捗状況は、文部科学省の支援により海外で開催される学術的な国際研究集会への派遣人数は、下記指標1のとおり増加傾向であるため、概ね順調に進捗している。	
	達成目標5 - 6 - 3 平成14年度の進捗状況は、文部科学省の支援により、国立大学等の主導で開催する国際会議シンポジウムの開催件数は、下記指標2のとおり同程度で推移している。また、若手研究者を対象として、参加者間のネットワーク構築を目的とした多国間セミナーが日本学術振興会により新規に開催されているため、概ね順調に進捗している。	
達成目標5 - 6 - 4 平成14年度の進捗状況は、下記指標3のとおり外国人研究者の受入は増加傾向であり、下記指標4のとおり外国人特別研究員制度(日本学術振興会)の受入人数においても増加傾向であるため、概ね順調に進捗している。		

達成目標5 - 6 - 5
平成 14 年度の進捗状況は、下記指標5 のとおり海外への研究者の派遣は増加傾向であり、下記指標6 のとおり海外特別研究員制度（日本学術振興会）の派遣人数においても増加傾向であるため、概ね順調に進捗している。

基本目標達成に向けての進捗状況

平成 14 年度の基本目標の達成に向けての進捗状況は、各達成目標に向けて施策が概ね順調に進捗している。

今後の課題

1. 国際的重要課題への機動的推進（達成目標5 - 6 - 1 関係）
国際機関会合、科学技術協力協定下の合同委員会等において、政府間協議の対象となる事例・課題（地球規模の問題の解決を目指した研究や国際的な取組が必要となる基礎研究等）が増加しつつある。政府間協議と政府間合意の実現において、我が国がイニシアチブを発揮するため、重要課題の国際協力についての我が国の明確な政策形成を行うためのシステムが不可欠である。
2. 多国間交流ネットワーク事業（達成目標5 - 6 - 1、5 - 6 - 4、5 - 6 - 5 関係）
先端研究の推進を図る上で、また、研究者の国際交流を促進する上で、先進諸国との研究ネットワークは極めて重要であるが、最近における先端研究の国際的展開に対応するためには、従来の二国間の研究ネットワークを継続的に強化するとともに、新たに多国間のネットワークを早急に構築する必要がある。
3. 外国人研究者とのクローズドセミナーの実施（達成目標5 - 6 - 2、5 - 6 - 3 関係）
我が国の研究者が、自らの研究・開発に対する新しい可能性の発見や分野横断的な領域の開拓を図るため、国内外の優秀な研究者を集め、最新のアイデア・意見を交換する「クローズドセミナー」は非常に有益である。そのため、日本でのセミナー開催支援、海外で開催されるセミナーへの派遣支援等を早急に拡充する必要がある。

評価結果の15年度以降の政策への反映方針
(政策評価法第11条に基づく総務大臣への通知事項)

- 今後の課題を踏まえ、平成 15 年度から以下の新規事業を開始する。
1. 国際的重要課題への機動的対応（達成目標5 - 6 - 1 関係）
政府間合意に基づく重要課題協力の機動的推進（科学技術振興調整費）
政府間合意により進めることとされた重要課題協力について、関係府省等の実施機関が遅滞なく対応できるよう、専門家会合の開催など、初動的な調査研究を支援。
戦略的国際科学技術協力推進事業（科学技術振興事業団）
政府間合意に基づく重要課題のうち、特定の機関で対応するよりもプロジェクト型で対応する方が効果的なものについて、優れた研究者チームによる共同研究等を支援。
 2. 多国間交流ネットワーク事業（達成目標5 - 6 - 1、5 - 6 - 4、5 - 6 - 5 関係）
先端研究グローバルネットワーク事業（日本学術振興会）
生命・材料科学等の先端研究分野毎に、学術研究において先進的な成果を上げている各国の研究機関による多国間ネットワークを構築することにより、二国間では対応できない大型共同研究や研究の効率的推進を図るとともに、参加国の人材養成に資する事業である。
拠点大学交流事業多国間展開の推進（日本学術振興会）
現在、我が国とアジア各国との間で実施している「拠点大学交流」を発展させる。国際共同研究を実施する中で、複数国の参加による多国間のネットワークを形成し、日本を中核としたアジアの研究圏の形成を図り、参加国の人材養成に資する事業である。
- また、今後の課題を踏まえ、平成 16 年度は外国人研究者とのクローズドセミナーの実施を拡充する。（達成目標5 - 6 - 2、5 - 6 - 3 関係）

指標	指標名	10	11	12	13	14
	1 国際研究集会派遣研究員による海外で開催される国際会議への派遣人数 1 (達成目標5 - 6 - 2 関係)	6 2 2	5 9 8	6 4 7	6 6 0	6 8 6
	2 文部科学省が支援する国際シンポジウムの件数 1 (達成目標5 - 6 - 3 関係)	9 6	1 0 1	9 9	1 0 1	9 8
	3 研究者国際交流状況調査(受入) 2 (達成目標5 - 6 - 4 関係)	21,170	22,078	29,586	30,067	今後調査
	4 外国人特別研究員制度(日本学術振興事業団)による受入人数 3	1,094	1,240	1,225	1,340	1,711
	5 研究者国際交流状況調査(派遣) 2 (達成目標5 - 6 - 5 関係)	87,817	94,217	112,372	103,204	今後調査

	6 海外特別研究員制度(日本学術振興事業団) による派遣人数 3	175	200	225	228	250
参考指標	科学技術協力協定を締結している国数	19	19	20	32	38
備考	1 競争的資金によるものを除く 2 試験研究機関等及び国立高専を平成12年度より調査対象に追加 3 前年度以前からの継続者及び当該年度新規採択者の合計人数					

施策目標 5-6 科学技術活動の国際化の推進

科学技術活動の国際化の推進

国際的な取組が必要とされている研究を国際協力プロジェクトとして推進するとともに、研究成果等の積極的な海外発信を行い、我が国の科学技術活動を認知させる。また、研究者国際交流を促進するとともに、国内の研究環境を国際化する。

主体的な国際
協力活動の展
開

国際的な情報発信力
の強化

国内の研究環境の国際化

達成目標 5-6-1

地球規模の問題の解決を目指した研究や国際的な取組が必要となる基礎研究等について、国際協力プロジェクトを推進する。

<主な事業>

- ・ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP)
- ・我が国の国際的リーダーシップの確保 (科学技術振興調整費)

達成目標 5-6-2

研究者間のネットワークを構築し、我が国の研究成果、研究水準を世界に発信するため、海外で開催される国際会議等で研究発表を行う研究者の派遣を拡充する。

<主な事業>

- ・国際研究集会派遣研究員制度

達成目標 5-6-3

研究者間のネットワークを構築し、我が国の研究成果、研究水準を世界に発信するため、我が国の主導により開催する国際会議に対する支援を拡充する。

<主な事業>

- ・国際シンポジウム制度

達成目標 5-6-4

研究者国際交流を促進し、我が国の研究環境を国際化するため、外国人研究者の受け入れを拡充する。

<主な事業>

- ・外国人特別研究員制度

達成目標 5-6-5

研究者国際交流を促進し、我が国の研究環境を国際化するため、海外の優れた研究機関で研究する経験を積めるよう日本人研究者の派遣を拡充する。

<主な事業>

- ・海外特別研究員制度

科学技術・学術活動の国際協力・交流の主体的、積極的な推進が極めて重要

地球温暖化等の地球規模の問題の解決
我が国から優秀な研究者の流出が懸念